



宮沢賢治《日輪と山》水彩・紙 制作年不詳 © 林風舎

生誕130年 宮沢賢治展

岩手の美術風土と賢治——

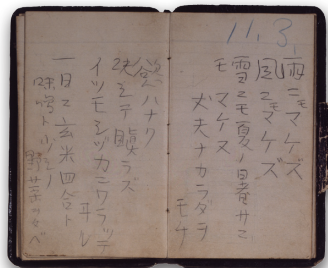


[特別公開]

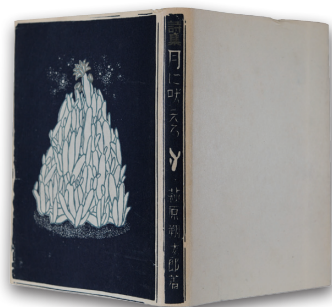
■ 宮沢賢治「雨ニモマケズ手帳」、《日輪と山》、《無題（赤玉）》、《無題（ケミカルガーデン）》ほか

■ 萩原朔太郎 詩集『月に吠える』より
恩地孝四郎・田中恭吉「挿絵原画」

*会期中、一部資料の展示入れ替えがあります。
原画、原資料の展示期間は、ホームページでお知らせします。



宮沢賢治「雨ニモマケズ手帳」© 林風舎



1. 萩原朔太郎『月に吠える』
・賢治が目にした詩集『月に吠える』には、恩地孝四郎、田中恭吉の作品が挿絵として掲載されていた。



2. 宮沢賢治 © 林風舎
・抽象絵画を思わせる賢治の水彩画。恩地孝四郎の版画作品との類似性が見られる。

3. 恩地孝四郎
・詩集『月に吠える』に掲載された版画作品のうちの一点。

2026年9月19日[土] — 12月6日[日]

■ 開館時間 9時～17時（入館は16時30分まで） ■ 休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日休館）

■ 入館料 一般700(650)円／高校・学生400(350)円／小・中学生300(250)円 * () 内は20名以上の団体料金

■ 会場 萬鉄五郎記念美術館 ■ 主催 萬鉄五郎記念美術館、宮沢賢治記念館 ■ 企画協力 林風舎

1. 萩原朔太郎『月に吠える』1917年（復刻版）／2. 宮沢賢治《無題（赤玉）》水彩・紙 制作年不詳 © 林風舎／3. 恩地孝四郎《抒情（よろこびあふれ）》木版・紙 1917年 萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち 前橋文学館蔵

萬鉄五郎記念美術館

〒028-0114 岩手県花巻市東和町土沢5区135番地
TEL.0198-42-4402 / FAX.0198-42-4405

生誕130年 宮沢賢治展

1. 宮沢賢治（花巻農学校教師のころ）1924年1月。林風舎／2. 宮沢賢治（「日輪と山」水彩・紙制作年不詳。林風舎／3. 萬鉄五郎（「落陣」荷車ひきのいる風景）油彩・画布1911年頃。公益社団法人花巻共立会総合文化芸術院蔵／4. 田中恭吉（「画稿よりII」）1915年／5. 恩地孝四郎（「抒情（よろこびあふれ）」木版・紙1917年。萩原明太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館蔵／6. 宮沢賢治（「無題（ケミカルガーデン）」水彩・紙制作年不詳。林風舎／7. 宮沢賢治（「無題（赤玉）」水彩・紙制作年不詳。林風舎／8. 宮沢賢治（「春と修羅」）1924年／9. 宮沢賢治（「注文の多い料理店」）1924年



1. 宮沢賢治（花巻農学校教師のころ）◎林風舎

宮沢賢治（岩手県花巻市生まれ／1896～1933）は、詩人、童話作家、宗教家、科学者、教師など様々な顔を持ち、農民の文化的な生活向上を目指して羅須地人協会を設立するなど、短い生涯のなかで多面的な活動を展開しました。文学者として世界的な評価を得ている賢治ですが、一方で、彼が当時の美術動向に敏感に反応して描いた独創的な絵画作品の成立過程について、いわゆる「賢治と美術」との関係については、これまで一般にはあまり話題にされてきませんでした。



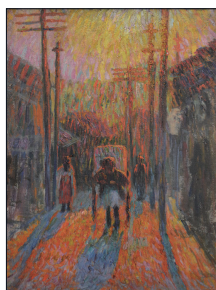
2. 宮沢賢治《日輪と山》◎林風舎

自らの詩を「心象スケッチ」と呼んだように、賢治文学には視覚的なイメージが色濃く映しだされており、その美術的素養を裏付けるものとして、代表作《日輪と山》のほか、シュルレアリスム風の《無題（ケミカルガーデン）》や、抽象的な《無題（赤

玉）》など、独自色に溢れる水彩画が残されています。さらに、彼の手帳やノートには、美術家さながらの手慣れた描写によるスケッチやドローイングの数々を見ることが出来ます。

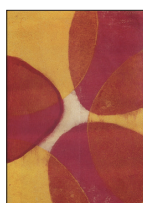
このような独創的な賢治絵画の創作背景を考えると、彼の周辺で話題となっていた美術動向を見逃すことはできません。彼の盛岡中学や盛岡高等農林時代に、「岩手毎日新聞」で連日

報じられ衆目を集めていたのは、今日、日本近代美術の先駆者と

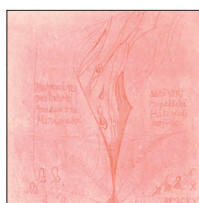


3. 萬鉄五郎《落陣（荷車ひきのいる風景）》

称される地元出身の画家・萬鉄五郎でした。紙上に掲載された絵画はモノクロの荒い図版ながら、萬の作品に関する論争や話題が連日報じられ、岩手発の「新しい画家」や「新しい絵画」の登場を、県内をあげて注目することになります。そのような風潮のなか新しい美術への関心は、賢治の水彩画にも如実にあらわれることとなります。なかでも強い影



5. 恩地孝四郎《抒情（よろこびあふれ）》



4. 田中恭吉《画稿よりII》



7. 宮沢賢治《無題（赤玉）》◎林風舎



6. 宮沢賢治《無題（ケミカルガーデン）》◎林風舎



8. 宮沢賢治『春と修羅』



9. 宮沢賢治『注文の多い料理店』

響をもたらした要因のひとつに、萩原朔太郎の詩集『月に吠える』を目にしたことが指摘されています。同書に掲載された田中恭吉、恩地孝四郎の作品と、賢治絵画の間には極めて近い類似性があり、これらの「新しい絵画」が賢治の絵画観の成立に果たした役割や関連を見ることが出来ます。

また、賢治が生前に刊行した著書はわずか2冊にとどまりますが、その装幀や挿絵を手掛けたのは彼と同世代の県内の若い美術家たちでした。阿部芳太郎は『春と修羅』の製函と箱の表紙デザインのほか、賢治主宰の農民劇の舞台製作を手掛け、菊池武雄は『注文の多い料理店』の表紙画と挿絵を手掛けています。彼らに関わる資料や逸話からは、賢治と美術家との交友関係が浮かび上がり、彼の美的関心に刺激を与えたことが読みとれます。

本展では、宮沢賢治生誕130年を記念し、文学の創作を中心とした生涯の歩みをたどるとともに、これまで注目されてこなかった賢治の美術的側面に光をあてます。彼の独創的な絵画表現と視覚イメージの源を探りながら、賢治と美術との間に秘められた相関について初の検証を試みたいと思います。

企画展関連事業

講演会

「宮沢賢治・美術との相関」

講師／青木（秋枝）美保

宮沢賢治生誕130年記念第5回国際研究大会実行委員長
宮沢賢治学会「ハート・センター」代表理事

対談

青木 美保 × 平澤 広

萬鉄五郎記念美術館館長

会場／萬鉄五郎記念美術館
日時／令和8年10月24日（土）午後2時から

同時開催

宮沢賢治ゆかりの地

滝田恒男 風の巡礼展

花巻市在住の画家・滝田恒男が、賢治ゆかりの地を訪ね描いたスケッチ約70点を展示します。

会期／9月19日（土）～12月6日（日）
会場／ハートセンター（入場無料）
時間／9時～16時30分
休館日／月曜日（祝日の場合は翌日休館）

*関連事業の詳細・会期中の展示入れ替えについては美術館ホームページでお知らせします。内容は変更する場合がありますので予めご了承ください。
<https://www.city.hanamaki.wake.jp/bunkasports/bunka/1019887/yozutsutsugo/1002101.html>

岩手の美術風土と賢治

萬鉄五郎記念美術館

〒028-0114 岩手県花巻市東和町土沢 5-135
TEL.0198-42-4402 / FAX.0198-42-4405

交通アクセス：
・JR釜石線「土沢駅」から徒歩8分
・東北新幹線「新花巻駅」から車10分
・釜石自動車道「東和IC」から1km

周辺施設：
・花巻市博物館
・花巻駅
・JR釜石線
・東北自動車道
・日本現代詩文館（22km）
・仙台
・高村光太郎記念館（27km）